

想定した経営類型 ぶどう(加温、無加温、露地)

1. 技術体系の特徴

経営類型	家族労働力	品目・栽培型及び規模		経営・技術の特徴	
ぶどう ハウス40a 露地20a (動噴防除体系)	人  2.0	ぶどう(巨峰、加温)	a	1.加温、無加温および露地「シャインマスカット」は短梢せん定、無核栽培。露地「巨峰」は長梢せん定、有核栽培 2.加温は巨峰系優良系統の導入 ウイルスフリー苗	
		ぶどう(巨峰、無加温)	20		
		ぶどう(巨峰、露地屋根掛け)	10		
		ぶどう(シャインマスカット、露地屋根掛け)	10		
		合計	60		
		経営耕地面積	水田 90a 樹園地 60a		
経営目標	1 農業総収入	14,287 千円	4 1日当たり農業所得	15,914 円	
	2 農業経営費	9,742 千円	5 1人当たり年間労働時間	1,143 時間	
	3 農業所得	4,545 千円			

2. 資本装備と減価償却費

	種類・規模	数量	型式・構造・能力	所 割	有 合	取得価格	耐用年数	年間償却額
						千円	年	千円
建物・施設	加温ハウス(連棟標準補強型AP)	2	M6.0×4R×42.5m		1	22,409	14	800
	無加温(連棟標準補強型AP)	2	M6.0×4R×42.5m		1	19,685	14	703
	果樹棚	6	平棚鉄支柱		1	12,020	14	429
	屋根掛け(トンネル)	2	トンネルパイプ2.5m間口		1	2,020	14	72
	作業収納舎66㎡	1	軽量鉄骨		1	6,238	24	260
	重油タンク	1	1.9kL		1	479	7	34
	防油堤	1			1	345	25	14
	計					63,195		2,313
農機具	トラック(軽)	1	0.35t積み、4WD		1	1,500	4	188
	小型運搬車	1	3kw、リフトダンプ付き		1	389	4	49
	動噴	1	22L/min		1	192	7	14
	刈払い機	2	排気量20.6cc		1	68	7	5
	暖房機	1	87.2kw		1	958	7	68
	換気扇	2			1	1,260	7	90
計					4,367		413	

3-1. 技術体系(ぶどう:巨峰、加温)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
間伐 せん定	間伐 整枝 せん定	12/中 ~ 下		1	24	24	誘引ひも 1巻	<ul style="list-style-type: none"> <li>・密植状態にならないよう計画的に縮間伐を行う。</li> <li>・短梢せん定は、芽の乾燥や枯れ込みを防ぐため、基部1~2芽を残して犠牲芽せん定する。なお、主枝間の距離は1.8~2.0m、側枝の間隔は18~20cmとする。</li> </ul>
土壌改良	堆肥、 土壌改良資材 施用	10月	トラック	2	5.5	11	堆肥 2t 苦土入りカキ ガラ石灰 100kg	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土壌改良資材は、土壌診断結果に基づいて施用する。</li> <li>・改良資材施用後は樹間を軽く中耕する。</li> <li>・2~3年に1回を目標に、樹間を部分的に中耕する。</li> </ul>
草生管理	草刈り	3月 4月 6月 7月	刈払機	1	8	8	稲わら	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土壌の乾燥防止のため、梅雨明け前に主幹周辺に敷わらをする。</li> <li>・除草剤の使用は夏草雑草発生期にとどめ、雑草草生による地力向上に努める。</li> <li>・使用薬剤、使用方法は県雑草防除基準による。</li> </ul>
	除草剤 散布	5月	動噴	2	1	2		
施肥	基肥 追肥 礼肥	10/中 3/下 7/上	運搬車	1	6	6	配合肥料 (N:7%)100kg	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肥料の種類、施肥量は土壌の条件、樹勢等によって適宜調整する。</li> <li>・年間の窒素分施肥割合 基肥 追肥 礼肥 60% 20% 20%</li> </ul>
防除	薬剤散布	2~10 月	動噴	2	11	22	1回の散布量 300~500L	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落葉・せん定枝は園外に搬出し、病虫害の密度を低減する。</li> <li>・ハウス内では葉害が発生しやすいので、薬剤の選択、散布時の条件などに十分注意する。</li> <li>・農薬の安全使用を徹底する。</li> </ul>

3-1. 技術体系(ぶどう:巨峰、加温)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
摘房 摘粒	房の切り詰め	3/上		2	15	30	ストレプトマイシン液剤 ジベレリン液剤 または粉末	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花穂の整形は、開花7日前から処理直前までに花房の先端を3~5cm残し、それ以外の支梗を除去する。</li> <li>・開花7~14日前にストレプトマイシン液剤1,000倍(200ppm)を散布し、満開3~5日後に無核化を目的としてジベレリン25ppmにフルメット液剤5ppmを加用して花房浸漬を行い、満開14日頃に果粒肥大を目的にジベレリン25ppmを処理する。</li> <li>・着房過多は糖度不足や着色不良の原因となるので、地力や樹勢に応じて結果量を調整する。</li> <li>・摘粒は大豆大の時に有核果粒を除去し、大きな無核果粒を残す。</li> <li>・摘粒、着房の目安 4,000~4,500房/10a 1房粒数30~35粒</li> </ul>
	無核処理	3/中		2	1	2		
	摘房・摘粒	4/上		2	25	50		
袋かけ	袋かけ	4/中		1	30	30	果実袋 4,500枚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・袋掛けの時期が遅れると、晩腐病、スリップスの被害や農薬による汚れが多くなるので摘粒後、できるだけ早く袋をかける。</li> </ul>
収穫 出荷	収穫 選果 箱詰め 出荷	6/上 ~ 下	トラック	2	56	112		<ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫は果実温度の低い午前中に行う。</li> <li>・果実はていねいに取り扱い扱う。</li> <li>・出荷は1kg化粧箱80%、300gパック20%として試算</li> <li>・糖度は17度以上、着色はカラーチャート8以上を目安に、減酸を確認して適期に収穫する。</li> </ul>
休眠打 破	芽キズ	1/下		1	2	2	芽傷鉢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発芽促進のため、部分的に芽傷を入れる。また、メット青2倍液を塗布する。</li> </ul>
新梢管 理	芽かき 誘引 副梢摘 心	2~ 4月		1	22	22	誘引ひも 1巻 テープナー 1個	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最終の新梢本数は5,000~5,500本を目安とするが、樹勢に応じて調整する。</li> <li>・芽かきは、展葉期から実止まり決定期にかけて行う。</li> <li>・新梢の誘引は、長さ40cmの頃から、棚面に均等に配置し、結束する。</li> <li>・花ぶるいのおそれがあれば、展葉7~8枚の頃、フラスター液剤を散布する。</li> <li>・副梢は1葉で摘心し、棚面が暗くならないようにする。</li> </ul>

3-1. 技術体系(ぶどう:巨峰、加温)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
フィルム等被覆管理	外フィルム被覆	1/上		4	8	32		<ul style="list-style-type: none"> <li>・展葉期以降は出来るだけ内カーテンを開けて新梢に光をあてる。</li> <li>・硬核期以降は内カーテンを除去し、棚面を明るくする。</li> <li>・外気夜温が15℃を越えるようになったらサイドフィルムを除去する。</li> </ul>
	内カーテン取付	1/中		2	6	12		
	内カーテン除去	5/上		2	2	4		
	外フィルム除去	6/下		2	4	8		
温度管理	加温	1/中	暖房機	1	43	43	A重油 5.8kl	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温度管理の目安(℃)</li> <li>夜温 昼温</li> <li>加温～萌芽 10～18 30</li> <li>萌芽～展葉 18～16 25</li> <li>展葉～開花 16 25～28</li> <li>開花期間中 18 "</li> <li>結実～硬核期 17～18 "</li> <li>硬核期～収穫 15～18 "</li> <li>・開花中は最低気温を18℃に高め、花ぶるい防止に努める。</li> <li>・収穫間近になって酸含量が高い場合は、昼夜温を上げる。</li> </ul>
	換気	1/中～6月	換気扇、サイド換気装置					
水管理	灌水	1～5月	灌水施設	1	10	10		<ul style="list-style-type: none"> <li>・土壌により保水力が異なるので、それを考慮した灌水を行う。</li> <li>・水管理の目安(10a当たり)</li> <li>被覆時 : 50t以上</li> <li>加温～開花 : 5日間隔で15～20 t</li> <li>開花期 : " 5～10 t</li> <li>結実～硬核期: " 20～30 t</li> <li>硬核期～収穫: " 10～15 t</li> </ul>
その他	作業道排水溝整備	1～12月		1	16	16		
計						446		

## 3-2. 技術体系(ぶどう:巨峰、無加温)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
間伐 せん定	間伐 整枝 せん定	12/下 ~ 1/上		1	24	24	誘引ひも 1巻	・密植状態にならないよう計画的に縮間伐を行う。 ・短梢せん定は、芽の乾燥や枯れ込みを防ぐため、基部1~2芽を残して犠牲芽せん定する。なお、主枝間の距離は1.8~2.0m、側枝の間隔は18~20cmとする。
土壤改良	堆肥、 土壤改良資材 施用	10月	トラック	2	5.5	11	堆肥 2t 苦土入りカキ ガラ石灰 100kg	・土壤改良資材は、土壤診断結果に基づいて施用する。 ・改良資材施用後は樹間を軽く中耕する。 ・2~3年に1回を目標に、樹間を部分的に中耕する。
草生管理	草刈り	3月 4月 6月 7月	刈払機	1	8	8	稲わら	・土壤の乾燥防止のため、梅雨明け前に主幹周辺に敷わらをする。 ・除草剤の使用は夏草雑草発生期にとどめ、雑草草生による地力向上に努める。 ・使用薬剤、使用方法は県雑草防除基準による。
	除草剤 散布	5月	動噴	2	1	2		
施肥	基肥 追肥 礼肥	10/下 5/上 8/下	運搬車	1	6	6	配合肥料 (N:7%)100kg	・肥料の種類、施肥量は土壤の条件、樹勢等によって適宜調整する。 ・年間の窒素分肥割合 基肥 追肥 礼肥 60% 20% 20%
防除	薬剤散布	3~ 10月	動噴	2	10	20	1回の散布量 300~500L	・落葉・せん定枝は園外に搬出し、病害虫の密度を低減する。 ・ハウス内では薬害が発生しやすいので、薬剤の選択、散布時の条件などに十分注意する。 ・農薬の安全使用を徹底する。

3-2. 技術体系(ぶどう:巨峰、無加温)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
摘房 摘粒	房の切り詰め	4/中		2	15	30	ストレプトマイシン液剤 ジベレリン液剤 または粉末	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花穂の整形は、開花7日前から処理直前までに花房の先端を3~5cm残し、それ以外の支梗を除去する。</li> <li>・開花7~14日前にストレプトマイシン液剤1,000倍(200ppm)を散布し、満開3~5日後に無核化を目的としてジベレリン25ppmにフルメット液剤5ppmを加用して花房浸漬を行い、満開14日頃に果粒肥大を目的にジベレリン25ppmを処理する。</li> <li>・着房過多は糖度不足や着色不良の原因となるので、地力や樹勢に応じて結果量を調整する。</li> <li>・摘粒は大豆大の時に有核果粒を除去し、大きな無核果粒を残す。</li> <li>・摘粒、着房の目安 4,000~4,500房/10a 1房粒数30~35粒</li> </ul>
	無核処理	4/下		2	1	2		
	摘房・摘粒	5/中		2	25	50		
袋かけ	袋かけ	5/下		1	30	30	果実袋 4,500枚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・袋掛けの時期が遅れると、晚腐病、スリップスの被害や農薬による汚れが多くなるので、摘粒後できるだけ早く袋をかける。</li> </ul>
収穫 出荷	収穫 選果 箱詰め 出荷	7/中 ~ 8/上	トラック	2	52	104		<ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫は、果実温度の低い午前中に行う。</li> <li>・果実はていねいに取り扱い扱う。</li> <li>・出荷は1kg化粧箱50%、300gパック50%として試算</li> <li>・糖度は17度以上、着色はカラーチャート8以上を目安に、減酸を確認して適期に収穫する。</li> </ul>
休眠打破	芽キズ	1/下		1	2	2	芽傷鉢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発芽促進のため、部分的に芽傷を入れる。また、メリット青2倍液を塗布する。</li> </ul>
新梢管理	芽かき 誘引 副梢摘心	2~ 5月		1	22	22	誘引ひも 1巻 テープナー 1個	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最終の新梢本数は5,000~5,500本を目安とするが、樹勢に応じて調整する。</li> <li>・芽かきは、展葉期から実止まり決定期にかけて行う。</li> <li>・新梢の誘引は、長さ40cmの頃から、棚面に均等に配置し、結束する。</li> <li>・花ぶるいのおそれがあれば、展葉7~8枚の頃、フラスター液剤を散布する。</li> <li>・副梢は1葉で摘心し、棚面が暗くならないようにする。</li> </ul>

3-2. 技術体系(ぶどう:巨峰、無加温)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
フィルム等被覆管理	外フィルム被覆	2/中		4	8	32		<ul style="list-style-type: none"> <li>・展葉期以降は出来るだけ内カーテンを開けて新梢に光をあてる。</li> <li>・硬核期以降は内カーテンを除去し、棚面を明るくする。</li> <li>・外気夜温が15℃を越えるようになったらサトビニールを除去する。</li> </ul>
	外フィルム除去	7/上		2	4	8		<ul style="list-style-type: none"> <li>・外ビニールは着色を進めるため、梅雨あけ直前に除去する。</li> </ul>
温度管理	保温	2/中 ~ 7/上		1	40	40		<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼温は25~28℃を目標に管理し、夜温はできるだけ保温に努める。特に開花期間中は灰色かび病防止のため、ハウス内を過湿にしないよう換気に努める。</li> </ul>
	換気	2~ 7月	換気扇					
水管理	灌水	2~ 6月	灌水施設	1	10	10		<ul style="list-style-type: none"> <li>・土壌により保水力が異なるので、それを考慮した灌水を行う。</li> <li>・水管理の目安(10a当たり) 被覆時 : 50t以上 加温~開花 : 5日間隔で15~20 t 開花期 : " 5~10 t 結実~硬核期: " 20~30 t 硬核期~収穫: " 10~15 t</li> </ul>
その他	作業道排水溝整備	1~ 12月		1	16	16		
計						417		

## 3-3. 技術体系(ぶどう: 巨峰、露地屋根掛け)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
間伐 せん定	間伐 整枝 せん定	1/中 ～ 下		1	54	54	誘引ひも 1巻	<ul style="list-style-type: none"> <li>・密植状態にならないよう計画的に縮間伐を行う。</li> <li>・負け枝現象を起こさないよう主枝は強勢に保つ。</li> <li>・優良な結果枝を確保するため、樹勢に応じたせん定強度とする。</li> <li>・結果母枝は棚面に均等に配置し、結束する。</li> <li>・結果母枝数の目安 樹勢: 強1.5本/m<sup>2</sup>、中2.1/m<sup>2</sup>、弱3.0本/m<sup>2</sup></li> </ul>
土壌改良	堆肥、 土壌改良資材 施用	11月	トラック	2	3.5	7	堆肥 2t 苦土入りカキ ガラ石灰 100kg	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土壌改良資材は、土壌診断結果に基づいて施用する。</li> <li>・改良資材施用後は樹間を軽く中耕する。</li> <li>・2～3年に1回を目標に、樹間を部分的に中耕する。</li> </ul>
草生 管理	草刈り	4月 5月 7月 8月	刈払機	1	8	8	稲わら	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土壌の乾燥防止のため、梅雨明け前に主幹周辺に敷わらをする。</li> <li>・除草剤の使用は夏草雑草発生期にとどめ、雑草草生による地力向上に努める。</li> <li>・使用薬剤、使用方法は県雑草防除基準による。</li> </ul>
	除草剤 散布	6月	動噴	2	1	2		
施肥	基肥 追肥 礼肥	11/中 5/下 9/上	運搬車	1	6	6	配合肥料 (N: 7%)100kg	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肥料の種類、施肥量は土壌の条件、樹勢等によって適宜調整する。</li> <li>・年間の窒素分施割合 基肥 追肥 礼肥 60% 20% 20%</li> </ul>
防除	薬剤散 布	2～ 12月	動噴	2	14	28	1回の散布量 300～500L	<ul style="list-style-type: none"> <li>・袋かけ前の農薬散布は、果実汚染のおそれがあるため、農薬の種類、濃度、散布量を注意する。</li> <li>・黒とう病、べと病、枝膨病などは露地で発生しやすいので、防除を徹底する。</li> </ul>
摘房 摘粒	房の切 り詰め	5/下		1	32	32		<ul style="list-style-type: none"> <li>・着房過多は糖度不足や着色不良の原因となるので、地力や樹勢に応じて結果量を調整する。</li> <li>・摘粒は大豆大の時に実施する。</li> <li>・摘粒、着房の目安 4,000～4,500房/10a 1房粒数35粒</li> </ul>
	摘房・ 摘粒	6/中		1	50	50		

## 3-3. 技術体系(ぶどう:巨峰、露地屋根掛け)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
袋かけ 着色向上	袋かけ 環状剥皮	6/下		1	32	32	果実袋 4,200枚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・袋掛けの時期が遅れると、晚腐病、スリップスの被害や農薬による汚れが多くなるので摘粒後、できるだけ早く袋をかける。</li> <li>・着色向上と熟期促進のため、満開30~40日後に主枝を5mm幅で環状剥皮する。</li> </ul>
収穫 出荷	収穫 選果 箱詰め 出荷	8/中 ~ 9/上	トラック	2	42	84		<ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫は果実温度の低い午前中に行う。</li> <li>・果実はていねいに取り扱う。</li> <li>・出荷は300gパック100%として試算</li> <li>・糖度は18度以上、着色はカラーチャート8以上を目安に、減酸を確認して適期に収穫する。</li> </ul>
新梢管 理	芽かき 誘引	4~ 6月		1	20	20	誘引ひも 1巻 テープナー 1個	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最終の新梢本数は8,000本を目安とするが、樹勢に応じて調整する。</li> <li>・芽かきは、展葉期から実止まり決定期にかけて行う。</li> <li>・新梢の誘引は、長さ40cmの頃から、棚面に均等に配置し、結束する。</li> <li>・花ぶるいのおそれがあれば、展葉7~8枚の頃、フラスター液剤を散布する。</li> </ul>
屋根掛 け	被覆	3/下		2	4	8		
	除去	7/中		2	4	8		
その他	作業道 排水溝 整備	1~ 12月		1	16	16		
計						355		

3-4. 技術体系(ぶどう:シャインマスカット、露地屋根掛け)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
間伐せん定	間伐 整枝 せん定	1/中 ~ 下		1	54	54	誘引ひも 1巻	・密植状態にならないよう計画的に縮間伐を行う。 ・短梢せん定は芽の乾燥や枯れ込みを防ぐため、基部1~2芽を残して犠牲芽せん定する。なお、主枝間の距離は2m、側枝の間隔は20cmとする。
土壌改良	堆肥、 土壌改良資材 施用	11月	トラック	2	3.5	7	堆肥 2t 苦土入りカキ ガラ石灰 100kg	・土壌改良資材は、土壌診断結果に基づいて施用する。 ・改良資材施用後は樹間を軽く中耕する。 ・2~3年に1回を目標に、樹間を部分的に中耕する。
草生管理	草刈り	4月 5月 7月 8月	刈払機	1	8	8	稲わら	・土壌の乾燥防止のため、梅雨明け前に主幹周辺に敷わらをする。 ・除草剤の使用は夏草雑草発生期にとどめ、雑草草生による地力向上に努める。 ・使用薬剤、使用方法は県雑草防除基準による。
	除草剤 散布	6月	動噴	2	1	2		
施肥	基肥	11/中	運搬車	1	6	6	配合肥料 (N:7%)100kg	・肥料の種類、施肥量は土壌の条件、樹勢等によって適宜調整する。 ・年間の窒素分施割合 基肥 追肥 礼肥 60% 20% 20%
	追肥	5/下						
	礼肥	9/上						
防除	薬剤散布	2~ 12月	動噴	2	14	28	1回の散布量 300~500L	・袋かけ前の農薬散布は、果実汚染のおそれがあるで、農薬の種類、濃度、散布量を注意する。 ・黒とう病、べと病、枝膨病などは露地で発生しやすいので、防除を徹底する。
摘房 摘粒	房の切り 詰め	5/上		2	15	30	ストレプトマイ シン液剤 ジベレリン液 剤または粉末	・花穂の整形は、開花7日前から処理直前までに花房の先端を3~5cm残し、それ以外の支梗を除去する。 ・開花7~14日前にストレプトマイシン液剤1,000倍(200ppm)を散布し、満開3~5日後に無核化を目的としてジベレリン25ppmにフルメット液剤5ppmを加用して花房浸漬を行い、満開14日頃に果粒肥大を目的にジベレリン25ppmを処理する。 ・着房過多は糖度不足や着色不良の原因となるので、地力や樹勢に応じて結果量を調整する。 ・摘粒は大豆大の時に有核果粒を除去し、大きな無核果粒を残す。 ・摘粒、着房の目安 3,000~3,500房/10a 1房粒数25~30粒
	無核処理	5/中		2	1	2		
	摘房・ 摘粒	6/上		2	25	50		

3-4. 技術体系(ぶどう:シャインマスカット、露地屋根掛け)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
袋かけ着色向上	袋かけ環状剥皮	6/下		1	32	32	果実袋 3,000枚	・袋掛けの時期が遅れると、晚腐病、スリップスの被害や農薬による汚れが多くなるので摘粒後、できるだけ早く袋をかける。
収穫出荷	収穫選果箱詰め出荷	8/中 ~ 9/上	トラック	2	42	84		・収穫は果実温度の低い午前中に行う。 ・果実はていねいに扱う。 ・出荷は1kg化粧箱50%、300gパック50%として試算 ・糖度は18度以上を目安に、減酸を確認して適期に収穫する。
新梢管理	芽かき誘引	4~ 6月		1	20	20	誘引ひも 1巻 テープナー 1個	・最終の新梢本数は4,000本を目安とするが、樹勢に応じて調整する。 ・芽かきは、展葉期から実止まり決定期にかけて行う。 ・新梢の誘引は、長さ40cmの頃から、棚面に均等に配置し、結束する。 ・花ぶるいのおそれがあれば、展葉7~8枚の頃、フラスター液剤を散布する。
屋根掛け	被覆	3/中		2	4	8		
	除去	7/上		2	4	8		
その他	作業道排水溝整備	1~ 12月		1	16	16		
計						355		

4. 品目の作付体系

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
巨峰 (加温)	∩⇒	↑ 誘引	※ 房切詰め 施肥	▽☆		■◆◆U	施肥			施肥 土壌改良		整枝せん定
巨峰 (無加温)		∩	↑ 誘引	※ 房切詰め 施肥	▽	☆	U ■◆◆	施肥		施肥 土壌改良		整枝せん定
巨峰 (露地屋根掛け)	整枝せん定		∩ ↑ 誘引		※ 房切詰め 施肥	▽	☆U	■◆◆◆	施肥	施肥 土壌改良		
シャインマスカット (露地屋根掛け)	整枝せん定		∩ ↑ 誘引		※ 房切詰め 施肥	▽	U	■◆◆◆	施肥	施肥 土壌改良		

注) 生育ステージ記号 ↑:発芽 ▽:袋かけ ※:開花 ☆:着色始め ■:収穫 ◆:出荷

∩U:ビニール被覆・除去 ⇒:加温開始

5. 作業別・旬別労働時間(10a当たり時間)

1)巨峰(加温)

品目・作業/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																						
間伐せん定												12	24																						
土壌改良										5	6		11																						
草生管理			2	2	2		2						10																						
施肥			2				2			2			6																						
防除		2	2	2	2		2						22																						
摘房、摘粒			30	50									82																						
袋かけ				30									30																						
収穫出荷						10	50	52					112																						
休眠打破処理	2												2																						
新梢管理		2	2	2	2								22																						
被覆、除去	32	12			4		8						56																						
温度管理	3	3	3	3	2	2	2						43																						
水管理	2		2	2	2								10																						
その他						2	2	4	4	4			16																						
計	32	19	3	5	9	6	40	12	8	59	39	7	10	4	2	18	52	62	4	2	0	4	2	0	4	9	6	0	0	0	0	0	12	12	446
月計	54						105			16			132			4					19		0		24										

2)巨峰(無加温)

品目・作業/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																					
間伐せん定	9												24																					
土壌改良										5	6		11																					
草生管理			2	2	2		2						10																					
施肥			2		2		2						6																					
防除			2	2	2	2	2			2			20																					
摘房、摘粒				30	2								82																					
袋かけ													30																					
収穫出荷							20	50	34				104																					
休眠打破処理	2												2																					
新梢管理			2	3	2	2							22																					
被覆、除去		32		3	3	2	8						40																					
温度管理	3	3	3	3	3	2	2						40																					
水管理		2		2	2								10																					
その他						2	2	4	4	4			16																					
計	9	0	2	0	37	5	12	6	8	40	9	9	59	34	4	8	2	14	24	50	34	4	4	0	0	11	8	0	0	0	0	15	417	
月計	11						88			14			102		4		42			19		0		15										

3) 巨峰(露地屋根掛け)

品目・作業/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	
間伐せん定	20	10											24	
土壌改良											7		7	
草生管理				2	2	2	2	2	2				10	
施肥					2	2	2		2		2		6	
防除		2	2	2	2	2	2						28	
摘房、摘粒					32	50							82	
袋かけ・着色向上						32		10	40				32	
取穫出荷													84	
新梢管理				2	3	2	2						20	
被覆、除去			8				8						16	
その他						2	2	4	4	4			16	
計	0	20	10	0	2	0	2	10	6	3	5	7	5	38
月計	30	2	12	14	50	96	14	56	42	4	9	26	355	

4) シヤインマスカット(露地屋根掛け)

品目・作業/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	
間伐せん定	20	10											24	
土壌改良											7		7	
草生管理				2	2	2	2	2	2				10	
施肥					2	2	2		2		2		6	
防除		2	2	2	2	2	2						28	
摘房、摘粒					30	50							82	
袋かけ・着色向上						32		10	40				32	
取穫出荷													84	
新梢管理				2	3	2	2						20	
被覆、除去			8				8						16	
その他						2	2	4	4	4			16	
計	0	20	10	0	2	0	2	10	6	3	5	7	5	37
月計	30	2	12	14	50	96	14	56	42	4	9	26	355	

6. 総労働時間

品目・作業/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																								
総労働時間	82	78	30	10	92	26	90	60	40	146	164	42	82	138	116	106	182	196	52	64	100	80	36	92	80	20	0	8	48	28	14	4	0	0	24	106	2,436
うち家族労働	82	78	30	10	92	26	90	60	40	137	137	42	82	138	116	106	137	137	52	64	100	80	36	92	80	20	0	8	48	28	14	4	0	0	24	106	2,297
うち雇用労働	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8.7	27	0	0	0	0	0	45	59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	139